



旅する大八車と小さなパレード

かつてつくば道で用いられていた大八車を更新し8つの地域を巡ることで、地域に新しい循環と繋がりを生むプロジェクト

1. 「つくば道」と大八車

今回対象となる市街地エリアは、古民家や商店街が立ち並び、荷物運搬道として来た「つくば道」が含まれるなど、ものや人が移動する風景が存在していました。今回の提案では、かつてこの地で情報、荷物、人との関わりを運んでいた「大八車」に着目し、移動型屋台を活用したイベントを企画することで、地域に広域的な循環を促す事業プランを提案します。



図1. 筑波に残る大八車

2. 大八車でつながる筑波市街地

地域を自由に移動できるという大八車の利点を生かし、地域のイベントに応じて筑波市街地の公園や小学校、神社、商店街を移動しながら街と街を繋ぎます。大八車の移動性に、カフェやショップ、イベントスペースとしての機能を大八車に付随させることで、イベントを乗せた大八車が、地域の人々に新しい繋がりや交流を結んでいきます。

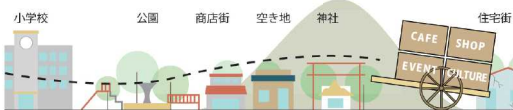


図2. イベントを串けて街を巡る大八車

3. 循環する事業スキーム

筑波の小学生や大学生と一緒に大八車を作成することで、制作過程から地域の住民の参加を促します。この大八車が地域を移動し、イベントに参加していく過程を通して、筑波を訪れた観光客や地域住民が循環に加わり、大八車を中心としたコミュニティの循環を構築することで、筑波の街に馴染み、愛されるような大八車を目指します。

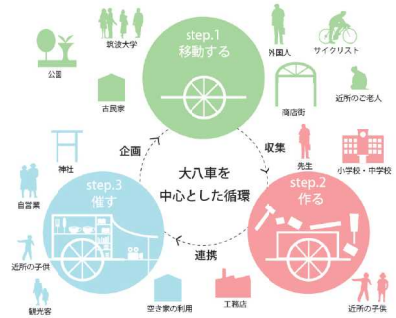


図3. 大八車を中心とした事業の循環

4. 地域と繋がる、3つのデザイン

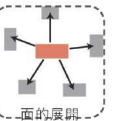
大八車が巡ることで、地域の方々と巻き込むパレードのような賑わいが生まれることを目指して新しい大八車のデザインを行いました。従来の大八車の上にステンレスフレームを付加することでカフェやショップ、展示台としても活用できるように大八車を更新しました。椅子や机といった組み立て式の什器は大八車の中に綺麗に収納することができ、色と色を合わせて組み合わせただけで什器が出来上がるカラフルなサイン計画によって子供でも楽しく組み立てることが出来ます。材料は地域のホームセンターでも購入可能な規格材を使用することで、低コストに制作でき、修理修繕や什器の追加などが容易に行えます。



図4. 新しい大八車のイメージと子供も利用できるような接合

ケース A/ 旧小田小学校 廃校

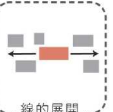
廃校となった小学校の校庭で子供を対象としたものづくりWSを企画し、子供たちと共に大八車の制作を行います。定期的に校庭や体育館で開催されているつくばローマーケットといったイベントと連携し、制作が終わった後も小学校を拠点として子供たちのとのかわりを持ち続けることを目指します。



小学校でのワークショップ風景

ケース B/ 北条市 秋の陣 商店街

秋と冬に開催される北条市で商店街沿いの道の歩行者天国を利用して、商店街の小さな隙間に家具を点在させていきます。歩き疲れた来訪者がほっと一息つけるような場を提供し、地元の食をテイクアウトして路面で食べることができる場を創り出すとともに、大八車自体も移動式店舗となって街に新しい賑わいを創り出します。



商店街イベントの風景

5. 8つの地域への連携

大八車が移動していく場所として、北条市や祇園祭などの地域イベントを想定しています。例えば、地元グルメや骨董品がならぶ歩行者天国となった商店街に移動式店舗として大八車がやってきてみんなが集まることのできる場を提供します。補助期間終了後も筑波周辺の地域のイベントに参加し、大八車自体の貸し出しを行うなど単発のプロジェクで終わることなく、持続的に運用することを視野に入れた計画を行います。8つの地域のイベントとその関係者が大八車をきっかけに繋がりをもち、地域の日常に新たな彩りを加えていきます。



図5. 地域のイベントを結びつける大八車

③北条市秋祭り ④御雷神社の秋の御祭 ⑤谷田部オクトムフェア ⑥りんりんロード